東城新聞

韓西小程

對墨樓山人

長白山の秋風は今正さに韓西の曠野を吹き始めたり、秋の花は一山の野に咲き、牧山の麓には雁下るあるべし、況んや高麗の舊都に松茸を拾ふ、此時失ふ可からず。●●南大門驛は南行北行の客蹤織るが如く、南客は發へども北客は離散なり、我等の列車に於て善き旅連れたりしは友人仙馬君なりき、君は本業に公用を帶びて行くなり。●無心にして山の走しるを喜び、無我にして水の移るを觀るは汽車の風流なる哉●官民相隔てて久濶なりし仙馬君との談話は一山、汶山、臨津諸驛を通過して尚は盡きざりき、車に耳無く、窓に口無し、吾人の放[illegible]て分袂し、直ちに南門知友の家に投す。●秋早しと雖も、靜かにして色とれる烟霞は山より山に包み、古國の市街は平和に立てり、滿月臺に躲ちて古瓦を拾ふに非ず、西廂に訝して舊事を訪ふに非ず、圃隱先生の最後を竹橋に弔ふにも非ず、俗累に追はれて古都の秋に立てば我情趣湧いて泉の如し、乃ち黄昏に乘して西門より南門に廻る、新月早くも白鶴山より上ぼれり、一帶の松林影靜ふして古への森嚴を語るが如し、指して市人に問へば曰く、高麗の遺宮なりと。家に歸りて知友と語る、人生の消長此月に對する每に已往を追懷し、將來を想像す、只だ一片の意氣未だ辨ぜず徒らに錦山の月を觀る、終宵感慨盡きず、翌朝舊路により、て歸る、歷々山河迎へて送り、諸々の驛路送りて迎ふ、農園漸く熟し、時勢幾何か靜かなるに似たり、重ねて漢城に入りて市事に從ふ吾人も亦た老たるかな。

●**韓船の難破** 八月三十一日全羅南道麗水郡三日面附近の行商人等七十余名光陽郡邑の市日に赴かんため龍成里より船に搭じ航行の途中船體の割合に乘客積荷の過重なりしに波風起りて航海の自由を失ひ兎角する内日没となり加之風波は益々加はり船體は見る間に押し流され船客一同必死となりて大聲救助を求めつゝありし一瞬時船體は暗礁に乘り上げ遂に破壞顛覆し二十四名の外は悉く溺死し死體の發見せられたるもの十にして他は何處の商人たる事も不明にて同地警察に於ては死體の搜索と共に乘客の住所等目下調査中なりと云ふ

●**定州地方の狼被害** 定州地方に於ては本年狼の人畜に危害を加へる事一再に止まらず一月以來の被害は嘉山郡にて五人の不明と數頭の家豚を定州郡にて小兒二名と家豚二頭に及びたる有樣にて事態容易ならざるものあり定州警察署は客月中旬より要所に巡査を派遣し人民を督して狼の棲息地發見に努めつゝあるも今尚得る處なきを以て引續き搜索に努力し居れりと云ふ

浮世ぐさ

●**斷髮の始**

又川名の看板の西洋散髮所とありて右方に横四十八番左方に銀座四丁目同家とあるは横濱東京にて最初に開業したる床と同店との意味を寓せしものにてそのペンキは東京にてペンキを使ひたる初ならん當時ペンキを求むる道なく海軍省に至りて僅小量のペンキの分與を乞ひ漸く縱三寸長二尺五寸の看板を塗りしといふ云々」とあり想ふに前記の虎吉といふは「ふたつ無いもづくし」の中に親父橋二階自身番に對して掲げたる藻賊橋「家」附髮結床とあるものなり老理髮師某いふ府下斷髮店開業の元祖は日本橋區鎧橋際に開きし某店なり第二は今の常盤橋外の庄司の隣りの地に開きし川谷と[illegible]削みしために閉店したりきと鎧橋は海運橋の誤なるべし

明治四年四月（年表）に曰く此頃常盤橋御門外髮結所に西洋風髮剪所の招牌を出す太き棒の頭に寶珠の形を彫り右の方へは朱白藍色の左卷といふ塗り分けにして立るこれより諸方に之を擬して一般の形狀となれりとこれ前にいふ川名ならんか四年の春夏の頃は已に斷髮者のふえたる事を知るべし其左卷の塗分云々は所謂アルヘイ棒にて今日は上りて軒の上にあり或は諸にて代用するに至れどももとは皆大道に立てれきしと當時の原始は醫師にして紅白色の繩は人身の動靜脈を表はし即ち醫師の看板より轉用されしものなりと看板考に見ゑたり

小品文

●**朝顏**● 好酌生

「牽牛花やつるべとられて貰ひ水」とは千代女の名句にして普く人口に膾炙する所、女性の優さしき情を遺憾なく發揮せり、僕の庭にも紫紅白三種の朝顏あり、每朝競ふて咲き亂れ僕の起床を待つものゝ如し、其邊は天分を擅にして四方に延蔓はり、立て掛けし處の釣竿に卷き付けり、之を離さんとし離すに忍びず、朋友の竿を借りて東門外の川に釣す。

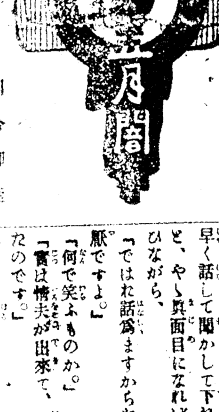
●**幾ちやん**● 九十九女史

幾ちやんは此の一月生れた許りです、夕が大層早稻で近頃は母の乳ばかりでは承知せず、御飯やら菓子やらをよく喰べます、チヨツチヨチは五六日此の方滅切上手になりましたが、ニギ〳〵はまだ出來ません、可笑しくも可愛いのは食物を欲しがるときに「ばいうまー〳〵」と申すことです、隣りのおばさんが始終「幾ちやん〳〵」と可愛がつて呉れるものですからソレに甘へてればさんの姿さへ見ると兩手を擴げて抱かれやうとするのです、全く子供といふものは可愛いものですネ、

俳句

白露集

眠り行く子守の母は蚊に喰われ　櫻水



騷きの木の間を縫ふて納涼臺　松花
裏店の樣臺せまき納涼かな　三露
擔燈に月のかゝりて涼みかな　可碎
紀念碑の下に納涼の浴衣かな　田柿
秋近く馬の鈴振る田圃みち　松花
朝月に網干す濱や秋近し　同
風れちて水突む苗や秋近し　可醉
青田見へては漲く青海波　田柿
流れくる水に曝む青田哉　湖東
朝顏や縁に端坐す善智識　可醉
四阿屋の門戸飾せり牽牛花　櫻水

（十四）　川合卿葉

「しかしお前は其の閨秀女學校さやらを廢めて、其から後何處に奈何して、慾應所へ流れて來たのだ。」と、山川が問へば、



「奈何してッて、那樣事は可いぢやありませんか、何だか極が惡くて話されやしませんわ。」

と、お君はニッと笑む

「極が惡い……お巫山戯でないよ、人馬鹿にして。」

「眞箇ですわ、恁う見ゑてもまだ色事には初心な箱入の娘さんですもの、ホ、、、。」

「笑はせやがる、人面白くもない、冗談は常談として全くお前のお父さんが上京された頃、お前は何處に居たのだ、詳しい事を話して聞かせな、豈夫人買の手で賣られた理由ぢやなかつたらうね。」

「常談ぢやありませんよ、人を此方が賣ればとて、人に賣られるやうな、那樣お君さんぢやハイ憚ながらありませんよ。」

「ハイ〳〵恐れ入りました、飛んだ事を申しあげました。」

「本當に貴方は見掛けによらないのよ、お〳〵云へば恁う云ふ　隨分お人が惡いのね。」

「でもまだお君さんは修業が積みませんので、どうぞこれからお手柔かに御指南を願ひます。」

「存じませんよ、憎らしい、何となりと有仰いまし。」

「もう〳〵何にも云はないから、サア〳〵早く話して聞かして下れ。」

と、やゝ眞面目になれば、お君は嫣乎と笑ひながら、

「ではお話爲ますからお笑ひなすつちや可厭ですよ。」

「何で笑ふものか。」

「實は情夫が出來て、日光の邊を遊んで居たのです。」

「十五の時に。」

山川は呆れ顔に目を瞬る。

「はあ。」

と、お君は平氣。

「隨分早かつたね、成程十五でも十七八に見ゑるつてお父さんの話が本當だつたと見ゑる。」

「眞箇よ、眞箇十三四の時から十六かの十七かのと云はれたんですもの、年齢は十五だつても無理はないぢやありませんか。」

山川は、それには何とも云はず、唯ニヤツと笑つて、

「フム、其情夫と云ふのは何うしたのだ。」

「それがさ貴方大變者でしてね、私が這樣莫連女になつたのも、原の始りは其男のためですわ。」

「フム、一體何者だつたんだ。」

「何者つて、大學生なんです。」

「フム〳〵。」

「私はまだ東京に出たばかりで都會馴ない所へ、其人が大層優しくして下れたもんですから、スッカリ欺されちやッたんです。」

「奈何して懇意くなつたんだ。」

「それがね、可笑な事からなんですよ、私ある日曜日上野を知らないもんですから、上野には往きましたが、不案内で樣子が知れないもんですから、丁度櫻ケ岡の所に大學の制帽を冠つた書生が立つてたから、博物館を尋ねたのです、すると其學生の云ふには私も往くから案内してやらうつて、それから博物館に一緒に入りましたの。」

京城新聞

公果の合併
(アフリカ地圖の變色)

ロンドン電報に依れば列國の懸案問題たりし南阿公果自由國は愈々白耳義王國に合併せらるべしと、抑も公果自由國は何が爲に白耳義王國に合併せらるゝ乎、其合併せらるゝに至る迄には種々なる徑路を𢌞りたりと雖も、要するに列國に選ばれたる事實としては其主權者なる白耳義王の施政宜しきを得ず、秕政百出せるを以て關係列國はレヲポルト王に迫り其責任を負はし現時の如き狀態ならしむるよりは寧ろ之を放棄するか將た白耳義王國に合併して責任を以て秕政を革整すべきを以てせり、其結果終に合併に決したるものゝ如し、何故に白耳義國王が公果國の主權者となり、一轉して之を[illegible]に至れることを關係列國が快認せる乎、レヲポルト王が公果國の主權者となるに至れるは無論白耳義と公果との商業上の關係厚く他列國に優越せるが爲なりと雖も、列國が互に干渉して相爭ふを避けんとするも、白耳義の如き中立國に主權を與へて施政の任に當らしむるを便宜としたるが爲ならずんばあらず千八百八十三年レオポルド二世の主唱により創設せられたる公果萬國協會の事業は遂に公果獨立國となり、萬國協會協議の下に内政は施設せられたるも、紛擾百出せるを以て、千八百八十五年關係列國は伯林に會議を開き紛擾を治むるの方法を協議したるも列國共同の施設にては互に意見區々として等しく紛擾の絶ゆる間なし、其後關係列國は最も商業上の關係も、在留人の多寡も優越せる、殊に永久中立國たる白耳義に主權を與へて司配せしむるを可となし、終にレヲポルト王を以て主權者となすに至れり、列國が此擧に出でたるは最も至當の事なりとす、白耳義と公果との商業關係は最も深く、其重なる物產ゴム、象牙、椰子實及油は白耳義の工業材料として缺ぐ可らざるもの、之等物產の一年の輸出高一億一千万フランクの中白耳義は五千万フランク余を占む、殆ど其半に達す、輸入六千万フランクの中白耳義は二千万フランク余にして其三分の一を占む、在留歐羅人は總數三千人にして其中白耳義人は千五百人亦是れ其半を占む、斯る關係なるを以て列國は白耳義王を以て適當なる主權者と見做したるなり、然るに爾來白耳義王の施設を見るに秕政多く自國の利益のみに重きを置き他を顧みず、責任を以て統治の任に當らず、勢ひ内政は紊亂せざるを得ず、爲に列國は囂々としてレヲポルト王の無責任を攻擊し、主權者たる資格なしと迄に絶叫するに至れり、當時英國のデーリテレグラフは特派員を送りて實際を視察せしめて之を發表したり、然るに英國政府は好意を以て列國に說きて、レヲポルト王に其改革を忠告することゝせり然れども其効なきを以て更に主權を拾るか或は之を合併して真面目に統治せしむるかの問題となり、英國の好意的斡旋によりて合併問題を進めつゝありしが、今や合併問題は現實となるに至りし也

今や白耳義國會は公果合併案を可決通過せり、而して面積九千萬方哩、人口三千萬の公果自由國は終に白耳義に合併せられんとす、余輩は日韓關係の現狀に顧みて忸怩たるの感を起さゞらんとするも能はざるなり同時にレヲポルト王と伊藤統監の對照に聯想するを禁ずる能はず、レヲポルト王は自國人の利益にのみ重きを置きて責任を避けたり、伊藤統監は責任を重じ自國民の利益を輕視するの傾向なき乎、將さに正反對の對照を見るの感なき乎、レヲポルト王は徹頭徹尾自國本位なり、伊藤統監は非自國本位ならざる乎、斯の如くにしてレヲポルト王は終に富饒なる公果を併せ得んとす、伊藤統監は今尚ほ統治の困難に腐心煩悶するに非ざる乎、伊藤統監はレヲポルト王の鴻業を目して如何の感かある、獨りレヲポルト王をして令聲を博せしむるを快とするや現今列國の韓國に對する形勢はレヲポルト王が合併を慫慂したる萬國協會が恰も伊藤統監に向ても英斷を促すが如くに感ぜざる乎、余輩は公果の合併問題を以て對岸の火災視する能はず、茲に於て余輩は政治家に斷の必要なるを感ずると共に伊藤統監に向て英斷を望むの情を禁ずる能はざるなり

東京電報

▲井上邸へ侍醫差遣
同日岡侍醫頭を興津なる井上別邸に差遣の上御菓子一折御下賜あらせらる

▲二百廿日の天候
同日の天候は太平洋沿岸は一般に曇又は強風の地あるも其の他は晴朗にして北方及び内地の風力極めて弱く靜穩なりき

▲本月上旬の輸入超過
同月上旬の貿易は輸入超過九十三万餘圓にして一月以來の輸入超過累計は五百万圓なり(以上十一日發)

地方電報

▲風雨と兩將軍
昨日來の風雨のため元山居留地は全部浸水し被害多し、本日出發さるべき村田明石兩少將一行は元山出水の爲め出發未定なり(十二日元山發)

▲元山の水害別報
昨日來の降雨にて赤田川出水し橋落ちて當居留地の大半及び元山里浸水し悲慘を極む今防備中なり(十二日元山發)

雜報

●韓皇の井侯御見舞
閔宮内大臣は韓皇の思召を奉じ興津にて病中の井上侯に對し左の電報を發せり

閣下の病氣を聞き深かく軫念せらるゝ近狀如何只益々早く常度に復せらるゝ事を望む聖旨を奉して茲に電聞す

右に對し井上侯令息勝之助氏より左の返電ありたり

老父病氣に就き優渥なる軫念を賜はり恐懼に堪へず目下の病狀闘手の診斷によれば日を經るに從て恢復の望みなきに非ず皇帝願くは震衷を安せられ給はんことを

●萬壽節の後祝
德壽宮に於て十一日萬壽節の後祝ひのため多數の臣僚を召して演舞祝宴の催しありたる事は既報の如くなるが一昨十一日は昌德宮にても同樣の御催しあり各皇族李總理以下各大臣各承候官其の他百四十餘名の參內陪觀者ありたり

●漁磯免許に就て
本年勅令第三九號に依り國有に移屬したる漁業は當分の間從來慣行せる税率及び納期に依り[illegible]る事となりたるが其の特定人に漁具を定置し又は水面を區劃して使用する事を免許する慣習あるものは前年の免許者に此れを許し税額は前年と同一にし前年の免許者不明なるか又は其の經營を希望せざる時は競爭入札又は其他の方法に依り適宜免許者を定め其の免許期間は一年を限る事に定められたり

●治道技師會議
内部に於ては去る十日より各道沿道技師會議を開き四十二年度道路費豫算及目下施工中の改修工事の報告調査に關し審議しつゝあるが來る十五日頃には閉會すべしと

●水利組合の所管替
從來水利組合は度支部此れを主管せしが其の性質は內部に屬すべきものなるを以て今回此れを內部に移屬せられ度支部が嚮に部令を以て發布したる地方水利組合條令は廢止さるゝ事となり內部より更に適當の時機を見て勅令を以て同條令を發布する筈なりと云ふ

●暴徒討伐の結果
本年一月より八月三十一日迄に於ける憲兵隊に於て取扱ひたる賊の死者者總數八百七十六名捕虜總數二百三十三名銃の鹵獲八百三十四挺砲九門刀六十振槍十四馬二頭牛二十一頭船二隻弓一にして衝突回數は實に三百六十四回なりしと云ふ因に鹵獲砲は牛皮、鉄力及び紙を以て製作せしものなりと

◎暴徒の經濟上に及せる影響(續)

▲元山方面

▲水產に對する影響 江原道三陟郡より北は豆滿江に亘る沿岸一圓の日本出漁者の根據地域は都て不穩の狀態に陷り八月中旬長箭に襲來の虞あり同地に居を構へし鮑罐詰製造所並に蜑女船潛水器船等の數隻先づ事業を中止し同地を引揚げしを始めとし江原道各沿海に散在せる鮑海鼠船が漁業中暴徒の危難を避くるため元山若くは釜山に引上げしもの少からず秋冬の交鰆漁業の目的を以て出漁せし者も亦豫定地に至るを得ずして引返し或は單に綿網の買出に行きし者も或は彼の地より元山へ買出しに來らんとせし者も倶に途中の阻碍に依つて其の目的を達するを得ず特に甚だしきは江原道唯一の漁業たる鰮網は歙谷、通川、高城、杆城、襄陽、江陵の六郡を通じ約二百十五張あり一張平均千圓とするも二十五萬圓にして其の十分の四は日本商人其の十分の三は元山里韓人の放資殘りの十分の三を江原道人の所有とし昨年の夏漁は尤も不成績なりしため孰れも秋漁に着目し之に依つて其の缺損を補塡せんと待構へし矢先に暴徒のため秋漁を妨げられたれば其の損害は數十萬圓の多額に達したり

▲金融上の影響 元山の商勢力範圍に屬せる江原道の部分は其の中央以北なり而して南部は北部に比し產物の少なるにて海產物の外見るに足るものなく其の輸入貨物と雖も人口稀薄にして著るしき需要なきが故に江原道に於ける暴徒の影響は海產物の收獲を失ひたるを其の最も著るしきものと謂はざるべからず此の關係に於ては其の收獲を目的として該地方の韓人に貸附したる元山商估の資金の回收せられざるに至りたる影響は金融の繁忙を促したるや明かなり加ふるに輸入品の同地方に輸送せられざると殊に暴徒蜂起の結果或は平安道方面に對する輸入品も亦多少減少せんかを見越し輸入手控をなせる者さへあり從つて輸入貿易に影響を及ぼしたる亦言を待たず而して文川、端川地方に在りては豫じめ避難の場合あらんことを慮りたる者の如く一時は大豆の買惜みをなしたるがため其の地方の金融に圓滑を缺ぎたる如しと雖も元山に於ては已に其の後續々輸出せらるゝに至りたるが故に大なる影響を受くることなきを得たり

▲財政上の影響 元山財務監督局所管內に於ては昨年十一月暴徒蜂起以來尤も猖獗を極めし甲山、三水、長津三郡內は一時交通杜絕し財務所も全く元山局と連絡斷絕したる狀態にして本年三月以來漸く不完全乍ら諸種の通信開けたりと雖も一時は三財政所共全く執務停止の狀態に陷り三水財務署の如き本年一月燒棄の厄に罹り猶端川郡に於ては郡邑附近人心騷擾のため本年に至りては各稅種共郡邑以外に向つて一分も手を施すなきの狀態に陷れり而して是等暴徒のために感ぜし收稅上の困難の狀況及び其の程度大略左の如し

(一)納稅に充つべき金錢を暴徒のため討索せられたる事(二)人民は避難の準備として多少の貯存を必要とし稅金納付を躊躇したる事(三)地方に依り納稅するものは殺戮すべしと暴徒より脅迫せられたるために面長以下納稅者に至る迄非常に恐怖し納稅を躊躇したる場所ありし事(四)然らざる場所にても面長及び公錢領收者は皆暴徒に狙はるゝ危險あり職務を曠廢したる事

●密漁貿易取締と警察官
仁川稅關管內沿岸は密貿易船及密漁船の出入頻繁にて數百哩の沿岸線に對し充分監視取締をなすは頗る困難なるのみならず小數の監視官吏にては其取締の目的を達する能はざる場合多き爲め沿岸駐在各警察官の援助を受くるに決したるが今回仁川稅關長は各地警察駐在所に宛て此旨依賴を發したり

●監視署設置地調查
韓國沿岸に於ける關稅警察未だ完全ならざるを以て支那密貿易船及密漁船は續々來航するを以て關稅局に於いて之れが取締を嚴にすべく碧瀾渡、廣川外五箇所に監視所を新設する計畫あることは既報せし所なるが仁川稅關、釜澤監視官は監視所設置の下調として本日デーシー號にて碧瀾渡に向ふ由にて廣川外三箇所をも順次視察する筈也と

●水上警察署設置に就て
仁川に水上警察署を設置すべきことは既報せし如くなるが其後の成行を聞くに目下韓政府の財政餘り豐かならざる爲め來年度に於ては單に警備小蒸汽を買入るゝに止め他の設備は四十三年に繰延べらるべしとなり

●京龍道路改修と豫算
今回漢城府尹は京城市內及龍山に達する道路改修の計畫にて其經費約十四萬圓の豫算にて內三四萬圓は一般在京韓人の寄附に俟ち他は追加豫算として度支部に要求するに決したりと

●境警視の視察談(續き)
△徒涉二百四十三度 義州に到りたる際は偶々警察署長會議ありて同會議に列席したる管井江界警察署長は約八十里の長途を陸行したる由なるが此の地方の交通不便なる雨後の江川は水量增し橋梁無ければ何れも徒涉するの外なく任地より義州に着する迄二百四十三度、而かも甚しきは丸裸となりて携帶品を頭に載せて徒涉する數回絕へず規那を服用して健康を保ちたりと云ふ從て地方在勤の官吏が旅行其の他に如何に困難不便に堪へつゝあるかを知るに足るべし

△安東縣の舊新市街 安東縣の所謂舊市街は淸人部落にして新市街は主として日人の居住せる所なり而して前者の甚だ殷賑を極め居るに反し後者の寂寞なる嘆すべきものあり即ち舊市街に於ては一分間の通行人五百人と稱せらるゝに拘らず新市街は路上に草の生ひ茂れるを見此の地の開けたる當時淸人の居住せるもの一萬五千日本人は八千なりしものが目下は日本人は四千に減じ淸人は五萬の多きに達せりと以て兩者の盛衰を知るべし

△無料演舞場 安東縣の舊市街即ち淸人街に一の演舞場あり稍々宏壯なる建築にして李某なるもの一個人經營に成り常に舞を催し劇を演じ何人にも無料見物を許せり蓋し李某なるものが土地の繁盛を圖るために財を擲ちて營經せるものにて其の附近左右前後に宿屋飲食店商店等何れも盛況なり余は支那人は已れを利するを知りて他を顧みずと云ふの諺言なるを知ると共に邦人が韓國經營の中心ともいふべき京城に於て此の種の經營とも見るべきは民團に於て設備せる南山公園の日曜奏樂の他に對比すべきもの無きを思ひ心中支那人に對して恥しきを感じたり

△安東縣の日本民團 は淸國人の新市街に居住せるものに民團經費を負擔し何等の故障なく民團の經營をなしつゝあるは韓國の民團に比して進步せりとも云ふ可きが民長太田秀次郎氏は舊知の人なれば訪ひて余が見たる此の地に關して語りたるに氏は安東縣の現狀は敢て此れを衰運と云ふを得ず此れを他の日本人居留地に比し開港日尚淺き此の地としては現狀は當然にして悲觀すべきものに非ずと語られたり

●公衆電報取扱開始
京義線臨津江停車場附近に往復する公衆電報は從來其隣驛なる汶山又は長湍停車場にて取扱ひ同地へ郵便其他の方法にて轉送せし爲め遲着と不便を免れざりしが一昨十一日より臨津江停車場へ臨時電信機械を据付同驛に於て公衆電報の取扱を開始せり

●東洋協會入會者
左の諸氏は東洋協會の趣旨を贊同入會し頭書の金額を寄附したり

金百圓朴齊純、同閔丙奭、同權重顯、同趙民熙、同閔泳徽、金五十圓李會九、同李謙濟、同閔泳綺、同韓昌洙、同尹錫徽、同金春熙、同朴齊斌、同閔商鎬

●臨時假設救護班設置
赤十字社大邱久水委員長より鶴原委員總長宛の報告に依れば大邱委員部に於ては去九日大邱駐劄步兵第十四聯隊に於て軍旗祭執行に付萬一を慮り式場構內に臨時假設救護班を設置し大邱同仁醫院より醫師一名看護婦二名(外に人夫三名)を雇入れ午前八時より午後四時迄救護に從事せしめたる結果應急手當をなしたるもの左の如しと

病名	男女別	人員
卒倒者	女	二人
在眼中キヨウマク並にカクマクヘンコウ	男	一人
負傷者	同	三人

●仁川民團の會計檢查
仁川民團役所に於ては近々七八九三ケ月間の會計檢查を行ふべしと

●故郡氏と仁川民會
故仁川民團議員郡金三郎氏死亡につき功勞表彰に關する件につき一昨日午後二時より民會を開きたり

●林田囑托の出張
林田內部事務官事務囑托は寧邊より平北郡守會議に出張を命ぜられ昨朝出張せり因みに同郡守會議は十一日より向五日間開催さるゝものなり

●裁判所書記の出張
千綿大審院書記は金城へ長谷場控訴院書記は春川へ川崎地方裁判所書記は水原開城へ何れも裁判所廳舍取調のため出張を命ぜられ往復二週間の豫定にて本日出發す

●解職と採用
京城民團雇沖光孚は依願解職となり田良義助は雇に採用せり

公人私人
▲頭重德治(韓國駐劄憲兵隊附少尉) 一昨夜入京山本旅館
▲瀬川嘉次平(同上) 同上
▲小土肥信(東京石川島造船所技師) 一昨日入京巴城館
▲武島嘉三郎(第六師團附少尉) 一昨日入京浦尾旅館
▲久水三郎(大邱理事官) 同上
▲柴田虎太郎(鎮南浦農工銀行支配人) 一昨日歸任
▲土屋三郎(平壤同上) 同上
▲澁谷太吉(太田同上) 同上

●近事片々
▲仲秋の名月は曇りたる爲に觀ることを得ざりし時人墨客等は大に失望したらん乎
▲月には叢雲花には嵐し兎角浮世はまゝならぬ人事意の如くならざる十に八九なり
▲名月を[illegible]二百廿日の[illegible]殺也大暴雨にならざりしは何よりも結構也
▲二百廿日の厄日も先づ無事に經過せる者の如し此分なら本年の豐作は請合でムる
▲毎年厄日前後必ず多少の暴風雨あり之を思へば名月の雲がくれ位は余儀なき事也
▲韓人の排日的行動は研究せられて敵本主義とせらる然り敵本主義も少くはムらむ
▲排日行動をなすは親日黨たらんが爲也
▲排日行動は政權爭奪の爲に爲せるに過ぎず
▲政權を得て內閣を組織すれば無論親日行動に移るなり目的は只夫れ政權爭奪のみ
▲一も政權二も政權渠等の動く所政權以外なし借も濟度し難き政權狂的國民にムる
▲渠等の政權を得んとするは之に依りて自己の權勢を張らんが爲め也只夫れ權勢耳
▲權勢を張るの目的は之に依りて衣食住を華やかにして誇らんが爲め也是虛榮心也
▲詮じ詰れば虛榮狂に外ならず其眞底國家なし君主なしと言はるゝも辭なからん乎
▲兒戲に等しき虛榮狂之が爲に渠等は命を賭して迄爭ふ眞面目に研究する價値なし
▲大政治家や大策士が頭を抱へて腐心煩悶するは寧ろ笑ふ可き耳只夫虛榮の一塊團
▲李首相と宋內相とは尙ほ未だ暗鬪を續けつゝありて事每に衝突するとは異なりや
▲東拓副總裁の推選に就きて兩相互に下らず其見を固持して讓らず反目せりと云ふ
▲普通の觀察よりすれば苟も一國の大臣として斯る事のあるべき筈なし只風說耳か
▲露紙ノーオヤウレーミヤの日本通信員は桂內閣を保守頑固黨の內閣也と通信せり
▲武斷的內閣所謂帝國主義の內閣なれば外政上に發展するあらん危險的に評論すと
▲靑鏡を以て見れば總ての者靑く見へると一般露人の觀察は矢張露人の觀察にて候
▲政界の三スクミと評されたる加藤伊東渡邊の中加藤は英大使となりて局面展開す
▲伊東、己代次渡邊國武等も速に局面を展開し現閣と取組み鮮塞氏にアッと言はせよ
▲晨亭子の噂はチヨホラあるが無邊俠禪の消息に至りては杳として聞へず健在なりや

水の流れ（二）　みどり生

氣丈な母は女の手一ツにて三人の娘を養育し何かと娘の身の振り方やら一家の先々の事迄心を痛め身内懇意のものともさまざまと相談を重ねしが其の結果ある人の周旋にて直ぐ近所に住み居る有田某なるものゝ伜を婿養子に貰ふことゝなりしより此の母の喜びは一方ならずマヅ安心と重荷をおろしたやうな心地し可成取り急いで祝言の日を取り極めんと思ひ居る先きある曉娘は…に行くと稱して出で行きしまゝ歸り來なきより一家のものゝ心配は譬ふるに物なく母は殆んど狂氣の如くなりて諸所心當りの家を尋ね廻りしも一向に手掛りなく已むなく其の趣を警察署に屆け出でしが頓てもなく一日許りも經て母が鏡臺の抽斗を何氣なく開け見し所紛なき娘の筆蹟として「母上さまへ」と書せる書置きらしきものありしかば取る手遲しと急ぎ封を切りて披き見しに這は又如何に娘は母の鑑定で折角ソレと取り極めし婿がねを嫌ひ爰一兩年の間家出せる當時の遺書なりしかば母の驚きは非常にて更に右の遺書を携へて警察へ出頭し懇篤なる捜索願をなし一方又々遠方に迄手を分けて娘の行衛を尋ね廻りしも總に得る所なく唯空しく不孝の子よ不埒な娘よと思ひ煩ひしが母は其の年の師走風邪の氣味にて病床につきしまゝ病は益々重もり行き果ては三度の粥さへも咽に通らず醫師も今は匙を投ぐる危篤の際に迫りし故殘る二人の娘の悲嘆は餘所の見る眼もいぢらしく只母の全快を祈りし甲斐もなく母は終に五十四才を一期として敢なくも無常の…涙の國にとは旅立ちたり

降雨自在法の發明

▲親子二代三十餘年の苦辛▼

文明の世の難有さは夏の旱魃に小町其角の雨乞を頼むにも及ばず人工を以て自由自在に雨を降す事を發明したる者あり其仔細を聞くに岡山市に延原正孝の父直當と云ふ人ありて去明治十二年同地に大旱魃のありしとき電氣を應用して人工的に雨を降さんとの方法を考案したるも成功せぬ間に病死したるより子の正孝は父の遺志を繼ぎ苦心慘憺二十餘年の研究を積み漸く其方法を案出して數回之を實地に試驗したるに頗る好結果を奏したるが其方法は夕立のすさまじき雷電の伴ふを見れば電氣を應用すれば雨を降す事が出來るに相違なしと雨を降らすべき土地の中央附近にウヰンシャル式の摩擦電氣數臺を裝置し一臺より二萬ボルト以上の高壓なる靜電氣を起さしめ其傍に建たる高樹の上より數十時間空中に放散し其結果空中に放散する數萬ボルトの高壓電氣は其特有の働きに依りて空中電氣を集中し之と同時に空中に含蓄せる水分を集中し雲を起し雨を降すに至るべく然も實地の經驗に據れば雲を起し雷電を呈すべき筈が却つて雷電は呈せず雲のみ起りて降雨するの好成績を得たるよしさて降雨の區域は放電所附近を中心として直徑三四里の範圍内に亘り數十分繼續し殆んど驟雨に異らずといふ此方法に依り大和高市にては約三十萬圓の損害を免れ、其地山形、靜岡、山口縣等の各地方とても大いに好結果を得て將に枯死せんとする農作物の損害を免かれたる實例ありと云ふ

鹽湖津狀況

咸鏡北道鹽湖津附近の人民は十中八九は漁業に從事し其他の人民は主として農業者なる…部落の外他に商業あるは獨り鹽湖に止るのみ而して土地は一般肥沃にして耕作地に適す其重なる耕作物は米粟稗大豆高粱馬鈴薯等なり鹽湖は此地附近に於ける大部落にして戸數二百五十余を有し過半數商業に從事し殊に二七日には月六回市場を開設して各部落より生牛其他種々の物資を搬出して賣買交換し商賣の繁多なること城津以上ならん

而して鹽湖津以南の海岸なる部落は約四分の一は農業の側ら漁業に從事して生活の補助を爲し居る模樣なるも是等の事業は各個人經營にして協同組織の漁者なく隨て規模幼稚なり捕魚の主なるものは鯨、鯡、蛤等にして鯖、鰈の類は稀に見る所なり而して捕魚は鹽湖及城津等に運出して日用物品と交換或は賣買をなせり而して附近一般人民は豐富なる生活にして一般は住民は米麥粟等を飯糧に供するの外若干の余裕ありて山間住民の需用に應ずるの有樣にして家屋の構造衣服等に至る迄山間の住民と比較するに至極有福なるが如し

無料紹介欄の開設

求職、授職、婚嫁、其他の人事、土地家屋の貸借、其他

右は世間の御便宜を計るの趣意より一行十九字詰四行迄は無料にて本紙廣告欄に掲載可致候に付何人にても無御遠慮陸續本社へ御申込有之べく候

九月　　**京城新聞社**

電鐵車掌等の不服

韓美電氣會社にては車掌運轉手等に對し從來毎月皆勤者には俸給以外に賞與として若干金を給與せしに近來に至り勤怠の如何に拘らず何等の賞罰を爲さざるため職員一同は其の取扱の不當を鳴らし去る九日午後一時より同三時迄運轉手車掌等五十餘名同會社内に集會し協議の末雇主に對し不服を申立つる事となりたりと云ふ

代書屋の詐欺取財

京城本町一丁目民團役所前代書及紹介業者岡田某は三十九年八月頃京城南山町定井庄次郎が東大…

韓人の阿片自殺

法政大學生▲原因は放蕩

本月八日の夜人は既に床に入り庭の叢に虫の音のみ物哀れに喞く最と靜かなる十二時過ぎ龍山坊販伽倉契洞九統二戸金洙契（二十）は…阿片を服し自殺を企てたるを相根の家人が之を認め直ちに龍山元町なる佐藤醫院に驅付け之れが手當を乞ひたれば佐藤醫師は取るものも取り敢ず出張應急の手當を施したるも遂に絶切れたる後なりしかば此旨直ちに西部警察署に屆出たれば同署よりは警官出張し法の如く檢死を行ひ死體は實父に引渡されたり金洙契が斯く自殺を企つるに至りたる原因は洙契は日本に留學し法政大學に入り暑中休暇にて歸國中花柳の巷に遊び之れが爲め多額の負債を生じ大學にも歸られずなりたるより遂に精神に異狀を生じ斯る始末に至りたるものならんと云ふ

門外韓人所有の石山を買受け石材搬出場附近村民と交渉纏まらざるを聞込み自分に於て解決せしむる旨を告げ委任狀を取り其後關係村民及び所轄署長警部等に運動するとの名稱の下に幾度か金員を絞り取り而も昨年八月以來未だ解決せざるを東部警察署司刑事の知る所となり詐欺集速捕取調の上昨日京城理事廳へ送致されたり尚本件に付ては洲崎某外關係者もあり他に聞込たる非行數々あるも目下審理中に付追て掲載すべし

末恐ろしき少年

東大門外亭子村居住金興福（十八）は去る八日午後七時薄暮を機とし同所官林松樹の枝を折り籠に入れつゝありし所を巡廻の巡查に認められ東署へ引致の上取調を受けたるが同人の辨護する處によれば十日の孟蘭盆に松餅を製し佛に供する爲めなりと申述べたるが何分少年の事なれば同人父母一同を警察署に召喚し懇々將來を戒め放還したり

小料理屋の不埒

過般南部警察署より小料理屋取締に關し嚴重なる規則發布されつゝいて警官一同は鋭意之が規則の勵行に從事しつゝあるにも拘はらず中には其の筋の目を竊み右規則個條中の所謂「粉粧せる酌婦を店前に出さしめざること」等を遵守せざるはれろか甚だしきは通行の客を捕へて飲食を勸め果ては嬌語喃々聞くも忌はしき話を持ち掛けて通行人の春情を挑發せしむるもの往々有之やうなるが現に支那町の水月亭などにては一昨夜午後十時頃二三の白首共が店頭に於て客を捕へ無理から引き上げて二階の一間に押し入れ最初酒でタマして手管で陷れんとする模樣なりしかば頓て計圖…と圖に縛りしと見…

…しかソレよりは白雲漠々雲となりしか雨となりしかは知る由なきも察する所相當に要領を得たるならのなるべしとの鳥…付生どやらよりの投書のまゝを

女故の廢業

竹園町一丁目に三遊樓といふ曖昧飲食店あり最と清韓人向きの店なれど偶には色に餓へた日本人も來るとかや此曖昧屋に長崎縣生れの本田清子とてチイト計り迯皮の剝けた女ありまだ肩上げの取れぬ時より男狂ひを初め親兄弟の異見も空吹く風と聞き流したる果て我住む故郷に居られぬ始末となり親々へも默りて飛び出し當地へ漂ひ來たのが今年の三月頃にて珍しきまゝ其所此所と遊び暮す中僅かの旅費は何時の間にか遣ひ果し今は一文半錢もなく食ふに困る憐れの境遇になりたれば背に腹は替へられず今の所に住み込み名は酌婦なれど肉を賣る勤めの身とはなれりされば來る人毎に愛嬌を振り蒔き湧ノ□共を手玉に取りて生血を吸ひ居たり其中の一人にてツイ近頃迄赤門通りに西洋洗濯業をなし居りし鳥本兵衛とかいふ若者あり或る夜のこと友達に誘はれて三遊樓に遊び清子を呼んだのが病付となりて雨が降らうが風が吹ふが清子〳〵と云つて通ひ詰めたる揚句が果は定りの金詰り今は二進も三進も行かず首も廻はらぬ仕儀となり商業の洗濯も怠り勝ちな得意先から小言を云はれ遂には得意も減る計りにて到頭店も張り切れずなりたれば所に身を潜めて京城の空を眺めては太き息を吐き居るさは自業自得なり

差押保證金　訴訟印紙料

凡て訴訟費用便利御用達可申上候

京城長谷川町一丁目　和泉法律事務所隣　坂本兵太郎

石地藏に放火

忠清南道瑞山郡李基洪（三十）は十日午後三時金谷山御陵石地藏に何の遺恨ありてか莚を卷きつけ火を放ちたる折節東署の巡山巡檢之を認め例の通り東部警察署へ引致なしたるが如何にも石地藏に放火する丈けにて精神に異狀を來たし居るものなるより目下保護中なりと

◉移轉廣告

今般業務擴張ノ爲左記へ移轉仕候間不相變御引立ノ程奉希候

打弓綿製造販賣

京城大和町二丁目（軍司令部通）

㊀深堀製綿所

賊の窃盗

南署南小公洞宋甲釗なる賊は去る九日午後六時東署果洞申永考裏戸鑰錠二個を破壞して侵入し衣類雜品を大風呂敷に包み居る處を巡察遊完培に認められ東部警察署へ引致し取調べんとしたるに賊者なるより同人の父母を呼出し將來充分の取締をなし其意□なき樣懇々説□を加へ放還せり

韓人の賭場崩れ

東大門外亭子洞居住尹孫福（二十）身敎誨（二十）金景塔（二十）の四名は九日午後十一時其の一人なる金景培方にて同打揃つて賭場に花を咲か…

日曜奏樂

本日午後七時和城台に於て隊軍樂奏あり

一　獨逸國歌　　　　　不詳
二　歌劇　　進行曲　フォースト グ作
三　長唄　　三番叟　　山本樂長作
四　端歌　　紀伊の國　山本樂長作
五　日本軍歌集　　　　小幡樂長作

西本願寺の説教

長谷川町西本願寺にては本日午後八時より巖開教師の説教あり

日曜説教

旭町二丁目名古屋城内なる日本メソヂスト教會にては本日左の説教あり參聽隨意なりと云ふ

朝十時より　天來の福音　今井熊次郎
午後七時三十分より　未定　山口照平

チブスと赤痢

本町七丁目二十六番戸大越雪（二十）は十日腸窒扶斯に罹り大韓醫院に入院米倉町七十四番戸鳩初次方麻田スナ（四十）は十一日赤痢に罹り同日死亡せしに付火葬に附し患家は嚴重に消毒をなせり

壽座の木村一座

今回壽座に乘り込みたる木村猛夫一座は一昨日町廻りをなし同夜より開演来御殿を演ずる筈なりしも生憎く午後より暴風雨となりし爲め延期し昨夜より開演したるが更に角好劇家の待兼ね居りしことゝて開場早々仲々の好景氣なりし本日の替り狂言は「女漁師」全七幕と極り其場割は左の如し

江の島海岸、野々井別莊、柳田いそ宅、柏屋旅館、片瀨別莊、片瀨海岸、茅ケ崎の隱宅、松原の格闘、扇屋旅館、野々井御前病室、室內監禁、奥庭助出、ニコライ教會堂

重なる配役は左の如し

古道具屋德平（石井六左衛門）小間使政子（女優花井シゲ子）水屋玉枝（高尾猛）書生太田五郎（内藤天兵衛）野々井老御前（上田武之助）柳田イソ（矢野勘二郎）阿久澤進（松村松之助）漁師綱五郎（富士井宗彌）れクマ婆（福井二郎）野々井光雄（榎本武夫）東浦秋作（寺田健一）三木田醫學士（佐海軍兵）女漁師れキタ（女優野村君子）水尾末亡人、黒川太郎（木村猛夫）

改良會席御料理　本町八丁目　**東雲樓**

秋の衛生

誰れしも知る如く秋は夏より冬に移る氣候の更期にて冬と夏の更期なる春よりも人體に影響を及ぼす事多し例せば緒氏八十度の氣候にありては人は裸體となり居りても放散する體溫を塡補し平均を保つが故に別に身體には害なきも六十六七度以下の氣溫にありては體溫を塡補するを得ざる爲め夜間就眠の際十分注意せざれば寢冷を惹起す處ある是れ體溫の調節が失ふ爲…にしてそれが崩ずれば直ぐに感冒となるなり而して秋に於て多くの病氣は大抵感冒が原因なれば秋に於て先づ第一に注意せざるべからざるは此感冒なり又往々寢冷の爲めに下痢を催すことあり總て食物は胃にて消化されたる後腸に下り更に消化されてはじめて滋養分が腸内に吸收せらるゝに至るものにて腸の蠕動作用は外界の刺激を受くる事最も鋭敏なればうつかりして腹部を冷せば蠕動作用に變化を起し腹痛を感ずるに至る此場合猶ほ從りすまに不消化物を食する時は更に重き餘病を惹き起すに至るべし又感冒に罹れば多少身体に衰弱を來し誰れしも食慾を減ずるものなるが此際暴食又は過度の勞働をなす時は直ちに氣管支加答兒、エンフル腦炎等を惹起すべく身体の衰弱せし時は傳染病に罹り易く潜伏し居たる病勢も一時に發するものなれば呉れ〴〵感冒には十二分の注意を拂はざるべからず右に關する豫防法は皮膚の鋭敏を防ぐ爲め冷水摩擦をなすを良しとす但し身体に熟わる場合差控ふべきは勿論なり人によりて冷水を浴びる者あるもては壯健の者に非ざれば却つて危險あり又秋は赤痢、流行性腦膜炎、ペスト等流行することあれば是亦注意を要すべし食物は誰れしも夏は淡泊の物を好み寒くなるに從び肉類等の濃厚なるものを好む風あるがこは脂肪を作る爲め自然の要求によるものなるがあまり急激の變化は却て身体に害ありとす



廣告

父壽太郎儀東洋生命保險株式會社韓國支社と金貳千圓の保險契約致居候處今回死亡致候に付前記金額正に受領致候間茲に同會社被保險人諸君へ稟告候也

明治四十一年九月　　釜山港　受取人　森川壽夫

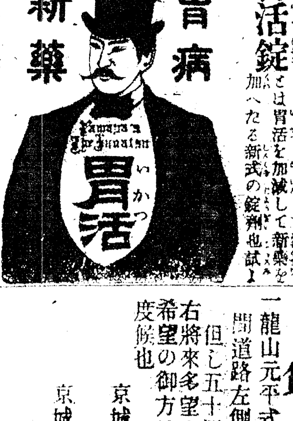
新講 富本半平の身上(三)

手前も小冬といふ女には餘ッ程迷つてたに相違ありません二階に坐つてゝも只もう小冬の來るのが待ち遠うで〳〵で堪らないそう斯するうち裏口の格子がカラ〳〵と鳴つて今晩は……といふ聲が聞ねた其聲が小冬に違いないからアヽ有り難い小冬の折宜く家に居たと見ねる夫れにしても今夜は首尾を宜くしたいものだ女將が仲に這入つて與れるといふのだからまさかに小倉屋で嫌んだ時の樣な事はあるまいなどゝ獨り胸を痛めて居ると女中を先き立ちにして小冬が座敷に這入つて來て先夜は如何も失禮……妾大層頂いたもんですから何が何だつたか薩[illegible]けてサアれ酌を致しましようとジリ〳〵と手前の側に寄り添つて來る其呼吸といふものは如何してナカ〳〵如才がありません丶厦に先夜は大ッバッサ……小冬ちやん丶前さんはビール黨だつた手今取り寄せるまでマア此れで我慢をして下さいと手前は前にあつた猪口を飲み干して先づ一杯とさすと丶ハイ有り難うと受けてニコリとする其風情といふものは惚れた慾目で見る爲かゾク〳〵と身の毛が丶立つ程美しいのです

ビールも來て暫時杯のやり取をして居ると下から小冬さん爲渡……と女中が呼び出しを掛けに來たハイといつて小冬は立ち上り帳場へ往つた樣な氣配でムいますから手前は愈々例の聚判だナと覺つて甘く往つて與れる樣にと胸は早鐘をつく樣な鹽梅式其うちに談判が濟んで小冬が上つて參りますと今度は手前がれ呼び出しに預るヲイ……よといつて往つて見ると女中が手前の耳に口を寄せて小冬ちやんが承知しましたよあのて〳〵な色男め何かれしごんなさいナといつて背中をイヤといふ程ドヤされました

手を叩いたので女中がやう〳〵の事でやつて參りましたが以前に引き換ねてカラもう佛頂面をして居るのでムいます手前は何で機嫌がわるいのやら一向譯が判然りませんが小冬の事が氣に掛りますので何は如何した小冬は……と尋ねると何ですつて小冬さん……小冬さんはトウの先箱屋を連れて歸ちまいましたよと劍もほろゝの挨拶に何ッ小冬は歸つた……ソンナ約束ぢやア無かつたぢや無いか……何で又歸るのをれ前方け默然つて居るのだと少しムッとなると小冬さんが歸つたのも無理アありませんよ私にしたからつてれ前さんの先程のザマを見ちやア愛相を盡しちまいますさア……ダカラそんな事の無い樣にと何度となく別室へれ出でなさいッてキッカケを渡したんぢやアありませんか夫れなのに厭に見得張つてゝ動きの取れ無い程れ酒ばかり呑んでるからあんなへマをやらかすのでさア女將もダラシが無いッてあんなダラシの無い男ア見た事が無いッて先程ッから大怒りサ





●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月金廿五錢 三ヶ月前金七拾錢 六ヶ月前金貳圓 一ヶ月郵稅[illegible]
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回四十錢 五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城明治町[illegible]